

## 消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

## 【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	救急出場時の引き継ぎについて
3. 体験した事例の中心的要素	普通救急隊から高規格隊へ、更に病院医師へと患者搬送の中で引き継ぎが出来なかった症例
4. 体験した事例の原因・理由	隊員間同士の行った処置の確認と伝達ミス

## 【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	情報入力に問題があった。 行動の実行に問題があった。
------------------	-------------------------------

## 【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 19年 0月 0日 時頃
2. 発生した当時の天候	わからない
3. 発生した活動現場	屋外：救急車内
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：経鼻挿管による気道確保において、挿管チューブが経鼻エアウェイを押しこむことで経鼻エアウェイの体内への誤挿入となるおそれがあったこと
7. 事例体験時の活動	救急、その他：病院到着後 [ ]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	病院へ引継
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[ 50 ]歳、勤続年数[ 32 ]年、現場経験年数[ 32 ]年、階級[ 消防司令 ]、同様の活動 [ 頻繁 ]、任務 [ 複数隊の隊長 ]
○当事者B	年齢[ 25 ]歳、勤続年数[ 3 ]年、現場経験年数[ 3 ]年、階級[ 消防士 ]、同様の活動 [ 頻繁 ]、任務 [ 隊員 ]
○当事者C	年齢[ 30 ]歳、勤続年数[ 12 ]年、現場経験年数[ 12 ]年、階級[ 消防士長 ]、同様の活動 [ 頻繁 ]、任務 [ 複数隊の隊長 ]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	B	気道確保のため、経鼻エアウェイを挿入し、バックマスクで人工呼吸を行う	
経過2	B	A 隊長には、経鼻エアウェイを挿入したことを報告できていなかった	
経過3	B	BVM で人工呼吸をしているうち、取り扱いに注意を払わなかったため経鼻エアウェイの全てが鼻の中に挿入されてしまう	
経過4	A	高規格隊と接触し患者の容態について引き継ぎを行う。呼吸管理については、気道確保に特に何も使用していないと思いこんでいたため、経鼻エアウェイの使用は高規格隊救命士に申し送りが出来なかった。	
経過5	C	高規格隊の救命士は、意識 ABC に注意を払いながら病院到着後医師に引き継ぐが経鼻エアウェイが挿入されていることは全く知らされていなかったため、報告が出来なかった	
経過6	病院医師	気道確保のため、挿管を実施しようと喉頭展開を行った際、経鼻エアウェイを発見する	
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？  
 ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

たまたま、事故にならなかった。その他：最終の確認が出来たため

- 心理・体調について  
 a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 | はい

・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ
b. 注意力が欠如していた	
・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ
-----

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について